

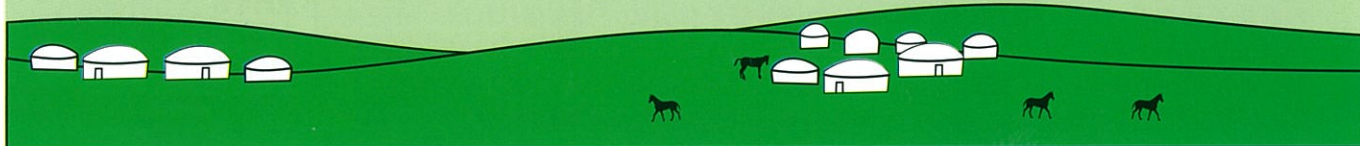


NPO法人
子どもセンター「パオ」

Newsletter

vol.38

丘のいえ・ぴあかも日記●
子どもシェルターとステップハウス●



パオの
現いま在

丘のいえ・ぴあかも日記⑰

今回は、シェルター「丘のいえ」やステップハウス「ぴあ・かもみーる」からの旅立ち後に触れたいと思います。

パオでは、関わった子どもたち1人ひとりに、担当のパートナー弁護士がつきます。パートナー弁護士は、担当する子が「丘のいえ」や「ぴあ・かも」にいるときにはもちろんですが、次のステップへ進んだ後も、支援を続けていきます。

旅立ち後しばらくは、新しい生活を整えるための手続きや買い物などの手伝いをしたり、分からないことの相談にのったりと頻繁に関わりますが、生活が落ち着いてくると、子どもからの連絡も少しずつ減っていきます。こちらから誕生日にお祝いのメールを送ったり、たまに「元気？」などとメールを送ったりして、近況を聞く程度に。それでも、つながりが続いていると、子どもが困ったときやつらいときに相談が来ることがあるので、細く長くつながることが大事だなと思います。

私は、パオで、10人以上の子どものパートナー弁護士になってきました。都合が合えば、会って食事をしたりもします。最近、一緒に担当していた弁護士と一緒に数年前に旅立った子と食事をしました。いろいろな話が弾む中、その子がふと「ぴあかもは、私が唯一子どもでいられた場所だった」と口にしました。子どもたちが安心して生活できる環境をつくってくれている「ぴあかも」スタッフの細やかに配慮のおかげなのですが、私にはとても嬉しく印象に残りました。

また、先日、9年くらい前に旅立った子が訪ねて来てくれました。親の虐待で家を飛び出して高校を中退し「丘のいえ」でしばらく休息した後、自立援助ホームへ旅立ちましたが、人間関係が上手くいかなかったり、上手くいかない自分を責めたりしていました。その度に私に電話をかけてきて、しんどい胸の内をまくし立てるように話していました。私には、ただ聴くしかできませんでした。そのうち彼女は、適度な距離で支えてくれる信頼できる医師と出会い、バイトをしながら定時制高校にも通うようにもなりました。この春卒業を迎え、今就職活動の真っ只中、面接帰りに立ち寄ってくれたのでした。ここ数年は、嫌なことがあって愚痴を聞いてほしいという電話は、年に数回程度でしたが、久しぶりに会うと、初めは彼女だと分からなかったくらい、見違えるほど大人になっていました。彼女は「頭をなでて」と言いました。私は「よくがんばったね」という思いを込めて、彼女の頭を「いい子、いい子」となでました。

(弁護士S)

